

## パート 3

### Paragraph 5-6

After several meetings with the young skateboarders, the Selectboard voted to amend the law so that only the downtown sidewalks would be off-limits. Since that time, the town has also built a skateboard park, which has been very popular since it opened in 1998.

In this example, we have illustrations of many different needs and all the community actors. It begins with the need for recreation. Some young people want to skateboard—it's their way of relaxing, rejuvenating; it's fun. We all need to take time to play, to enjoy life, especially the children. So these individuals take action to meet their need for recreation by turning the downtown into their playground. This action comes into conflict with the individuals and business organizations in town. Older people need to feel safe on the sidewalks. If they don't feel safe, they don't shop downtown, and so the business owners lose customers. These individuals and a few organizations (businesses) contact the local government to fix the problem. The local government, in turn, takes action to constrain the activities of the kids who were meeting their needs in a way that was annoying and a safety hazard for others. The original action has now gone full circle—individual action provoked an organizational reaction, which in turn helped initiate a government action that regulated individual action. All the community actors were involved in the situation in their own particular way.

\*\*\*\*\*

#### 【パラグラフ 5】

After several meetings with the young skateboarders, the Selectboard voted to amend the law so that only the downtown sidewalks would be off-limits. **1) Since that time, the town has also built a skateboard park, which has been very popular since it opened in 1998.**

#### エダヒ口訳

若者たちとの話し合いを重ねた結果、行政委員会は条例の修正を可決し、商店街の歩道のみスケートボード禁止となった。そののち、町はスケートボード場を建設。1998 年のオープン以来、大人気のスポートとなっている。

\*\*\*\*\*

**1) Since that time, the town has also built a skateboard park, which has been very popular since it opened in 1998.**

最後の文は、Since that time, the town has also built a skateboard park. It has been very popular since it opened in 1998.という二文を、which でつないだもの。最初是一文で訳そうと思ったのだが、「その後、町はスケートボード場を建設したが、1998 年のオープン以来、ここは大変な人気スポットになっている」というふうに、文のつながりに「が」を使うと、否定のニュアンスが出てしまい、次の文でそれを受けるわけではないので、ちょっと落ち着かない感じ。そこで二文に分けることにした。うん、そのほうが収まりがよさそう。

\*\*\*\*\*

## 【パラグラフ 6】

In this example, we have illustrations of many different needs and all the community actors. It begins with the need for recreation. Some young people want to skateboard—it's their way of relaxing, rejuvenating; it's fun. We all need to take time to play, to enjoy life, especially the children. So these individuals take action to meet their need for recreation by turning the downtown into their playground. This action comes into conflict with the individuals and business organizations in town. Older people need to feel safe on the sidewalks. If they don't feel safe, they don't shop downtown, and so the business owners lose customers. These individuals and a few organizations (businesses) contact **1) the local government** to fix the problem. The local government, in turn, takes action to constrain the activities of the kids who were meeting their needs in a way that was annoying and a safety hazard for others. **2) The original action has now gone full circle**—individual action provoked an organizational reaction, which in turn helped initiate a government action that regulated individual action. All the community actors were involved in the situation in their own particular way.

## エダヒ口訳

この例から、さまざまなニーズと地域社会の当事者のすべてがよくわかるだろう。ことの発端は、レクリエーションを楽しみたい！ という要望だった。スケートボードをしたいと思った若者たちがいたのだ。ボードに乗っていたら、肩の力も抜けて元気も出るのさ。それに楽しいし、というわけだ。私たちはだれしも、遊ぶ時間や人生を楽しむ時間を持ちたいと思うものだが、子どもであればなおさらのこと。というわけで、そう思った若者たちは、商店街を自分たちの遊び場にして、遊びたい気持ちを満たそうとしたのだった。ところが、この行動は、町の住民やお店との間に軋轢を生むことになる。年配の人たちは、安心して歩道を歩けなくては困るのだ。歩道を歩くたびにヒヤヒヤするようでは、商店街にやってこなくなる。そうしたら、店主はお客さんを失ってしまう。そこで、そう思った住民やいくつかの商店は、この問題をどうにかしてほしいと町にかけあった。そこで今度は町が行動を起こし、若い子たちがほかの人々に迷惑をかけたり危険を与えかねないやり方で自分たちのニーズを満たす活動を制限したのだった。個人の行動が、組織の反応を呼び起こし、そこから個人の行動を規制する自治体の行動が出て——当初の行動がいまやぐるりと一巡して戻ってきたのだった。地域の当事者すべてが、それぞれの方法でその状況に関与している。

\*\*\*\*\*

### 1) the local government

いくつか要チェックポイントを。まず、the local government の訳語。辞書通りだと「地方自治体」「地元政府」だけど、何を指しているかはわかるよね？ 「ここの行政を担当している町」だよね。これまでの文の調子からここでいきなり「地方自治体」は堅い気がして、もちろん「政府」じゃおかしいし、これまでの the town と同じく、「町は」で進めることにした。もちろん、「自治体」を使ってもいいけど、これまで「町」と言ってきたものと同じだという連続性は確保しておかないと、ヘンな話になる（またはよくわからなくなる）。

### 2) The original action has now gone full circle.

これもいろいろな訳し方ができるところ。繰り返しになるけど、訳文を考える前に、「どういうことを言っているのかな？」と著者の頭の中を想像すること。そのイメージがつかめれば、あとは日本語をくふうするだけだけど、ここがわからないままでは、日本語のくふうのしようもないからだ。

ここでの「どういうことか」は、このあとの文を読むとわかる。若者たちの行動→お年寄りや店主の行動→町の行動→若者たちの行動へと、次々と影響を与えて、ぐるっと回りまわって、最初の若者たちの行動に戻ってきた、というわけだ（ちなみに、これは「状況や問題は、さまざまな要素が影響を与える構造＝システムである」というシステム思考を説明している文章である）。その感じを伝える訳文に仕上げてみよう。

「振り出しに戻る」という訳例があったが、それでは「ゼロに戻る」というような別のニュアンスがついてしまうなあ。「こうしてひとつの行動が次々と次の行動を呼び、回り巡って最初の行動に影響を及ぼしたのです」という訳例は、丁寧すぎるぐらいだけど、状況がよくわかってよいなあ。



## エダヒロ訳

若者たちとの話し合いを重ねた結果、行政委員会は条例の修正を可決し、商店街の歩道のみスケートボード禁止となった。そののち、町はスケートボード場を建設。1998年のオープン以来、大人気のスポットとなっている。

この例から、さまざまなニーズと地域社会の当事者のすべてがよくわかるだろう。ことの発端は、レクリエーションを楽しみたい！ という要望だった。スケートボードをしたいと思った若者たちがいたのだ。ボードに乗っていたら、肩の力も抜けて元気も出るのさ。それに楽しいし、というわけだ。私たちはだれしも、遊ぶ時間や人生を楽しむ時間を持ちたいと思うものだが、子どもであればなおさらのこと。というわけで、そう思った若者たちは、商店街を自分たちの遊び場にして、遊びたい気持ちを満たそうとしたのだった。ところが、この行動は、町の住民やお店との間に軋轢を生むことになる。年配の人たちは、安心して歩道を歩けなくては困るのだ。歩道を歩くたびにヒヤヒヤするようでは、商店街にやってこなくなる。そうしたら、店主はお客さんを失ってしまう。そこで、そう思った住民やいくつかの商店は、この問題をどうにかしてほしいと町にかけあった。そこで今度は町が行動を起こし、若い子たちがほかの人々に迷惑をかけたり危険を与えかねないやり方で自分たちのニーズを満たす活動を制限したのだった。個人の行動が、組織の反応を呼び起こし、そこから個人の行動を規制する自治体の行動が出て——当初の行動がいまやぐるりと一巡して戻ってきたのだった。地域の当事者すべてが、それぞれの方法でその状況に関与している。

## 終わりに

パート1から3まで終了しましたが、いかがでしたでしょうか。ご自分のクセや傾向が見えてきましたか？ また、腑の声に自然と立ち止まり、見直し、考え直してみることができるようになってきたでしょうか。このトレーニングはとても重要ですから、ぜひ続けていってください。